

経営比較分析表（令和2年度決算）

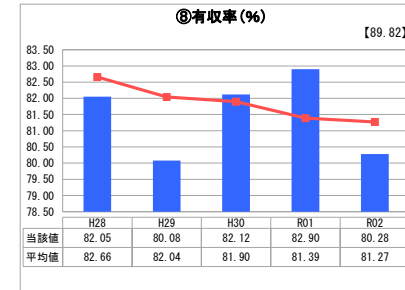
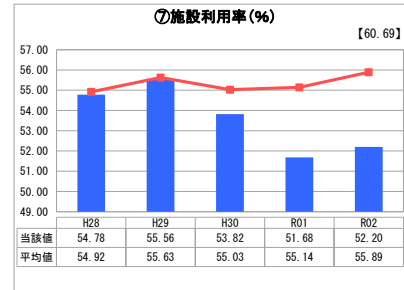
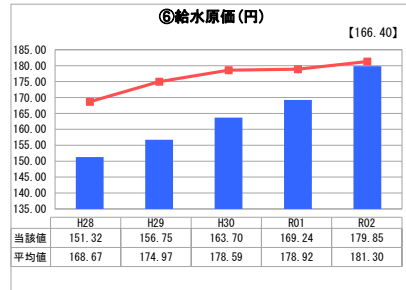
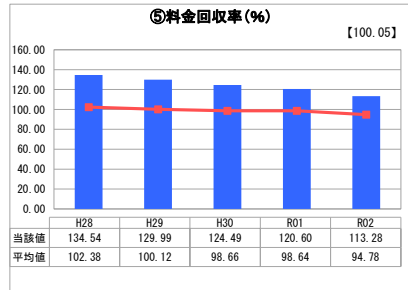
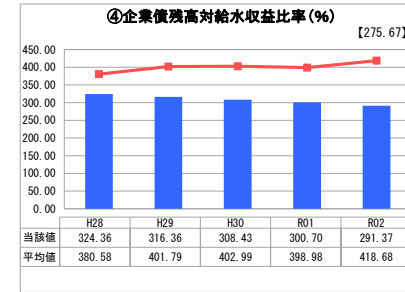
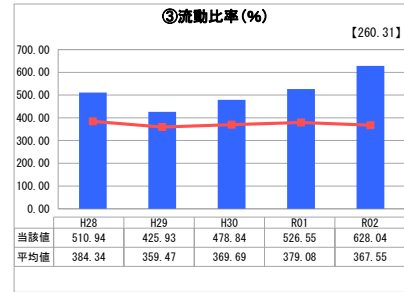
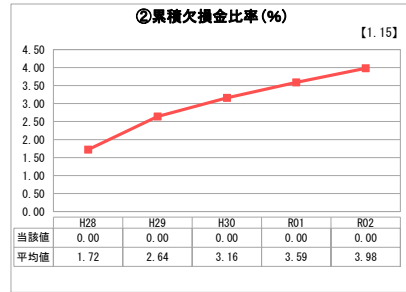
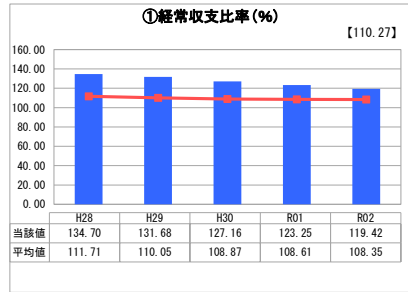
山形県 尾花沢市大石町環境衛生事業組合（事業会計分）

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	78.87	74.50	4,400	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,299	58.88	276.82

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

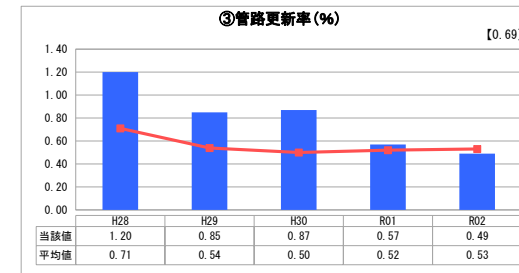
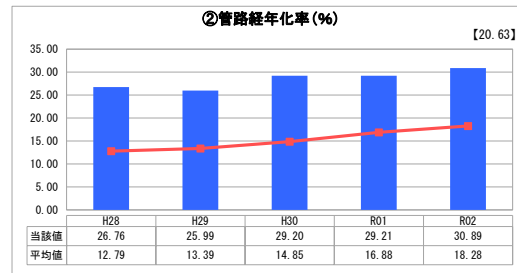
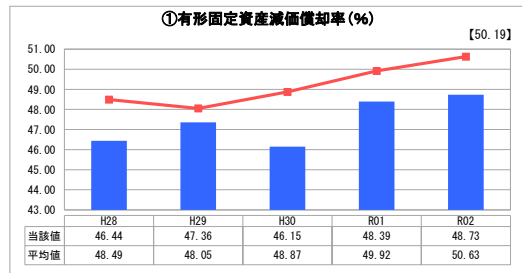
1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は今回も100%を超え、平均値も上回っている。
- ②累積欠損金は発生していない。
- ③流動比率は前回に引き続き増加しており、短期的な債務に対する支払能力に問題はない。
- ④企業債残高対給水収益比率は、年々平均値よりも低い数値で推移している。平成30年度を最後に企業債の借り入れは行っておらず、計画的な償還をしている。
- ⑤料金回収率は、年々減少しているものの平均値を上回っており、給水収益により給水に係る費用が賄われている。
- ⑥給水原価は今回も上昇し、平均値をやや下回る数値となった。
- ⑦施設利用率は前回より増加したものの、平均値を下回っている。適切規模での施設運営について、今後も現状分析と計画に取り組んでいく。
- ⑧有収率は前回よりも減少した。配水管の漏水や宅内漏水の増加が要因のひとつとなっている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率と管路経年化率は、前回に引き続き増加し、老朽化が進んでいることがわかる。管路更新率は前回に引き続き平均値に近い数値となったが、減少した。石綿管の布設替えも含め、全管路の更新には長い時間を要する。

2. 老朽化の状況



全体総括

経常収支比率、料金回収率ともに100%を超えており、健全な経営を行っている。しかし、今後も給水人口や水需要が減少していくことが予想され、給水収益の減少は続くものと考えられる。更なる費用削減と事業の効率化に努めるとともに、料金改定については十分な経営分析と検討を重ね、時期を見極めたい。また、全般的に施設の老朽化が進んでいる状況であり、施設更新の費用は増加していく見込みである。今後も重要度や緊急度等の優先順位と収支バランスを考慮しながら、計画的に事業に取り組んでいく。